

# 海上の花園 — 佐渡の海岸の植物 —

笹川 通博

お花畑と言え、高山のそれを思い出す人が多いでしょう。確かに、高山にはそこにしか生育できない貴重な植物がたくさんあります。しかし、海岸に生育する植物も、考えようによっては高山の植物と同じ位貴重であることを、多くの人に分かってもらいたいと思います。海岸は高山よりも比較的容易に近づくことができ、それどころか多くの人々が生活しているので、身近すぎてその価値に気づきにくいのでしょうか。しかし、海岸は高山に負けず劣らず特殊な所です。まず、水不足。一見、海の水がたくさんありますが、ほとんどの陸上の植物は塩分濃度の高い海水を直接利用できません。それどころか、海水がかかると枯れてしまいます。雨や陸地からの淡水は、砂浜ではすぐに吸い込まれ、磯ではすぐに流れ去ります。次に、砂浜でも磯でも栄養豊かな土壌に乏しいこと。それから、強風、波、干満、砂や石が動くこと、そして、人の活動など、海岸の条件は植物にとって厳しいものです。海岸の植物は、このような厳しい条件に適応した特殊なものなのです。

海岸の植物も季節になると高山に負けず劣らずお花畑を作り出します。佐渡の海岸では初夏になるとまさに海上の花園です【写真1】。砂浜は少なく、険しい崖や岩が続く荒磯で、



写真1 スカシユリとアサツキの群生  
(June 9, '96 佐渡七浦海岸 No. 1456)

岩石の色も淡い緑や赤、黒など、微妙に少しずつ違い、魅力的です。そこに、ハマハタザオの白い花から始まり、有名なトビシマカンゾウの橙、スカシユリの赤、アサツキの紫、ベンケイソウの黄、ハマボスの白、マルバシャリンバイの白、ハマイブキボウフウの白、砂浜にはハマエンドウの紫、ハマナスの赤、ハマヒルガオの桃、スナビキソウの白などが百花繚乱です。ここでは、私がこの頃歩いている佐渡郡相川町七浦海岸で見られる植物をいくつか紹介します。

## 1 ウミミドリ (さくらそう科) 【写真2】

新潟県では佐渡の海岸だけに分布する北方系の植物で、佐渡での分布は全国分布の南限です。高さ10cm程の小さな草で、初夏に桃色の星のような花が咲きます。私が歩いている七浦海岸では、6ヵ所で群落を見つけました。磯の潮だまりの湿地にクッション状に群生し、これまた珍しいドロイ、エゾウキヤガラ、シオクグなどと一緒に生えています。6ヵ所の群落は小さな入り江の奥にあり、うち3ヵ所は陸地から水の流れがあります。ウミミドリが生育できる環境を考えてみますと、大変厳しいことが分かります。磯の湿地で、波が直接にはかからない所です。波が来なければ磯はすぐに乾燥するので、湿地という条件は案外難しいのではないのでしょうか。また、小さくて目立たないので、人が知らないうちに群落を壊してしまうおそれもあります。佐渡の海岸の植物の中では、最も大切にしたいものです。



写真2 ウミミドリ (June 2, '96 佐渡七浦海岸 No. 1424)

## 2 エソツルキンバイ (ばら科) 【写真3】

北方の海岸に分布する草です。キジムシロの仲間ですが、茎がつるになるのが特徴です。大変珍しい植物で、本などにも佐渡七浦海岸のもの写真が載っていますので、是非見たいと思っていました。この前やっと3株を磯で見つけることができました。残念ながら花は見れませんでした。護岸工事などで消滅してなくてよかった、とほっと思いました。

## 3 エソヒナノウスツボ (ごまのはぐさ科) 【写真4】

県内では佐渡や粟島の海岸に分布し、越後での分布は極めて限られています。高さ1m程にもなる大きな草で、四角い茎にヒレのあるのが特徴です。初夏に濃い紫の小さな花



が咲きますが、この形がおもしろく、ウスツボ（臼蓋）なのです。ごまのはぐさ科は多様な種を含む大きな科です。どうして「ごまのはぐさ」なのか、この植物の葉をもんでみて分かりました。ごまの香りがするのです。ごまのはぐさ科の他の仲間ではしないようです。



写真3 エゾツルキンバイ  
(July 27, '96 佐渡七浦海岸 No. 1591)

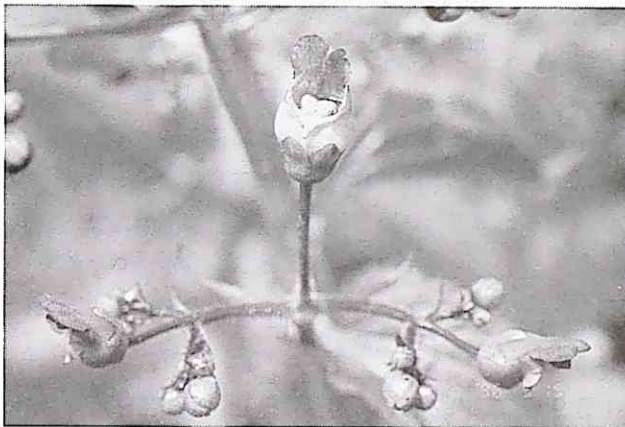


写真4 エゾヒナノウスツボ  
(May 19, '96 佐渡七浦海岸 No. 1278)

#### 4 ヒロハヘビノボラズ（めぎ科）[写真5]

佐渡には至る所にある低木ですが、越後では分布が極めて限られています。枝に鋭いとげがたくさんあり、それこ



写真5 ヒロハヘビノボラズ  
(May 12, '96 佐渡七浦海岸 No. 1237)

そ蛇も登れそうにありません。同じ仲間にコトリトマラズというのものもあるそうです。初夏、崖の上で乳色がかかった黄色の花が小さな玉のようになって豊かに咲く様子は、大変美しく魅力的です。秋の赤い実もおもしろいものです。

#### 5 エゾオオバコ（おおばこ科）[写真6]

オオバコといえば雑草の代表のようですが、エゾオオバコの越後での分布は限られています。佐渡には海岸の岩場だけではなく、街の中でも見られます。普通のオオバコに比べて小さく、毛がたくさん生えているところが違います。よく見るとなかなかかわいいものです。他にも、トウオオバコという高さが50cm程にもなる巨大なものも海岸に群生します。



写真6 エゾオオバコ  
(May 12, '96 佐渡七浦海岸 No. 1202)

#### 6 ハチジョウナ（きく科）[写真7]

高さ1m程になり、夏から秋にタンポポに似た花が咲きます。私が歩いている所には比較的多く見られますが、越後では見たことがありません。北方の海岸に多く、元は帰化植物（外国から来たもの）だそうです。

今回はこの6つを紹介しただけですが、当然、もっと多くの植物があり、それぞれおもしろい特徴や生活を持っています。これから秋に近づくにつれ、紫色のハマゴウやエチ



写真7 ハチジョウナ  
(July 21, '96 佐渡七浦海岸 No. 1571)



ゴトラノオ、ツリガネニンジン、桃色のカワラナデシコなどの花が咲き、また、多くの美しい実がなるのかと思うと楽しみです。しかし、残念でならないこともあります。1つは、海岸のゴミです。場所によってはゴミ捨て場のようになっています [写真8]。飲み物や洗剤などの容器が多いの



写真8 ゴミに埋るエゾヒナノウスツボ  
(May 25, '96 佐渡七浦海岸 No. 1333)

ですが、大きな陶器や機械なども落ちています。見ると日本語だけでなくハングル文字の物もあるので、これはおそく海にあったものが、佐渡の海岸まで流れついたのでし

よう。何気なく海に投げ捨てたものが、こうして海岸に戻って来るのです。世界の海がいかにか汚れているかということがよく分かります。きれいな海を売り物にしている佐渡としては、残念なことです。もう1つは、マツクイムシです。古い立派な松が無残にも茶色に枯れはて、次々と切り倒されて行きます。佐渡の歴史ある景色も、ほんの数年のうちに松がどんどんなくなったため、すっかり寂しくなりました。

本の紹介

佐渡の植物について興味を持たれた方は、次の本を推薦します。写真が大きくて美しく、解説もおもしろくて分かりやすく書かれています。

伊藤邦男 (解説)・村川博賢 (写真) (1995)「佐渡の花 春・夏・秋 (全3巻)」佐渡の植物刊行会・ドンデンの自然を考える会 7,800円

問い合わせ先：〒952-12 新潟県佐渡郡金井町千種106-3  
佐渡の植物刊行会 代表 伊藤 邦男  
TEL 0259-63-2709

新 潟 日 報 1996年(平成8年)5月5日 (日曜日)

草にも配慮し 自然を守ろう

堀 トシ子 無職 (新潟市)

春は楽しい季節ですが、気掛かりなことが一つあります。それは新潟海岸緑地の草刈りです。そのためにどれほどの海岸植物が姿を消していったか分かりません。

とがあります。下手にいじく土留めとして役立っているとかえって始末の悪い状態が生まれてくるようです。毒草や通行を妨げている

林の草刈りは必要でしょうか？ 林は庭園でも農耕地でもありません。雑草は悪者と決めつけて除去し土を出すのが最良でしょうか？ 雑草もそれなりに美しいのではないのでしょうか。

感激いっぱい

角田山登山

村上 毅 61 無職 (新潟市)

て「カラッ」「カラッ」という乾いた音をたて、やがてその種が目の前にパラパラと落ちてきます。

昨年、ドン山付近のハマナスが大量に切られ、緑のじゅうたんのような草がむしられ、この辺では希少植物ともいべきキカラスウリが除去されるなど散々でした。無残な目に遭った植物はまだあります。海岸植物の一つマンテマも激減、小路の両側を飾ってくれる姿が見られなくなりました。

長かった越後の冬に別れを告げ、ようやく春満開の季節になりました。冬になると決まって風邪をひき、体調を崩す私。健康対策も兼ねて三月から始めた今年の角田山登山も既に三回目です。

緑のじゅうたんのような草がむしり取られた跡は、一畝余にもなるオオアレチノギクのやぶと化し、家族連れがお昼を楽しむ場ではなくなりました。前にもスイアカシアが繁茂したこ

三月は登山道も雪が多く登山靴の底も泥だらけになりましたが、今はカラカラです。登るにつれて聞こえるウグイスのさえずりとカエルの鳴き声。静寂のしじまを破って時折、ヤマブツの殻が春の暖かさにはじけ

流れの速さをつくづくと感じさせられます。お互いにマナーと安全を心掛けながら、自然の美しさと恵みを満喫しようではありませんか。